

2019年3月期

IR説明会

株式会社 極 洋 (証券コード: 1301)

<http://www.kyokuyo.co.jp>

食卓に、海のおいしさと、おどろきを。



<https://www.seamarche.jp>



目次



2019年3月期の概況

- ・当社を取りまく環境 3ページ
- ・トピックス 4ページ

2019年3月期 決算概要

- ・計算書類 6～14ページ
- ・事業セグメント別の状況 15～21ページ

2020年3月期 施策及び業績予想

- ・事業セグメント別の施策 23～24ページ
- ・業績予想 25ページ
- ・設備投資計画 26ページ



2019年3月期の概況



当社を取りまく環境



経済・社会情勢

- 輸出や生産の一部に弱さが見られる
- 雇用・所得環境の改善が進み緩やかな回復が続く
- 海外経済の不確実性や金融資本市場変動など依然不透明

水産・食品業界

- 人手不足による労働・物流コストの増加
- 世界的な水産物需要の増大による買付コストの上昇
- 食の安心・安全に対する高い関心
- 少子高齢化による国内マーケットの変化

□ 『Change Kyokuyo 2021』をスタート 【4月】

魚を中心とした総合食品会社として高収益構造への転換をはかり、資源、環境、労働などの社会的要請を踏まえ、事業のウイングの拡大と時間価値の提供により企業価値の向上を目指す。

□ アスリートを社員として採用 【4月】

社会活動としてのスポーツ振興に貢献するため、カヌースラローム・カヤックの山本 嶺（やまもと りょう）選手を正社員として採用。業務と競技が両立できる環境を整備し、アスリートの挑戦を支援。

□ 新しい経営体制がスタート 【6月】

今井賢司会長、井上誠社長による新体制が発足。

□ 企業CMのテレビ放映を開始 【7月】

創立以来初となる企業CM「みんなのキョクヨー」篇を制作し、2018年7月よりテレビ放映を開始。CMソングの「キョクヨーのうた」はシンガーソングライターの つじあやの さんによる書き下ろし。



2019年3月期 決算概要



計算書類



1. 連結損益計算書

(単位:百万円)

	実績		前期比		当初予想	当初予想比	
	連結会計年度		増減金額	増減比率	連結会計年度	増減金額	増減比率
	2018年3月期	2019年3月期			2019年3月期		
売上高	254,783	256,151	1,367	0.5%	267,000	△10,848	△4.1%
営業利益	4,066	3,831	△235	△5.8%	4,800	△968	△20.2%
営業外収益	809	1,123	314	—	—	—	—
営業外費用	438	520	82	—	—	—	—
経常利益	4,437	4,434	△3	△0.1%	4,600	△165	△3.6%
特別利益	1,576	125	△1,451	—	—	—	—
特別損失	1,461	570	△891	—	—	—	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,211	2,914	△296	△9.2%	3,200	△285	△8.9%

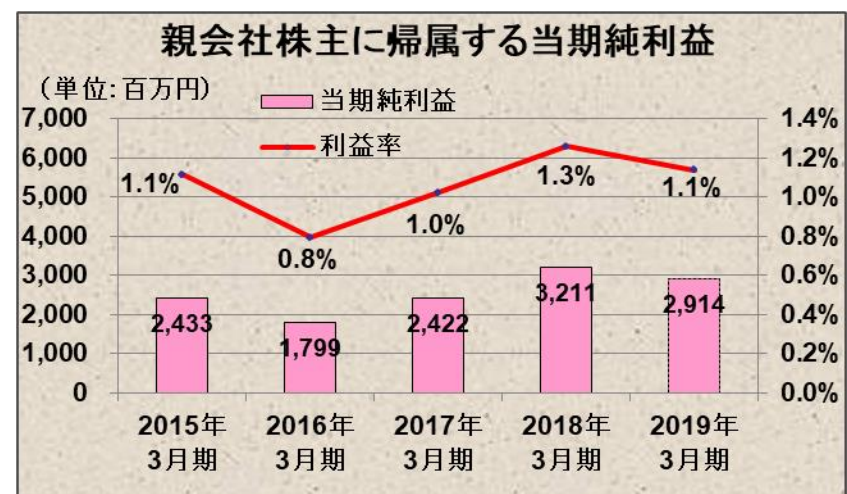
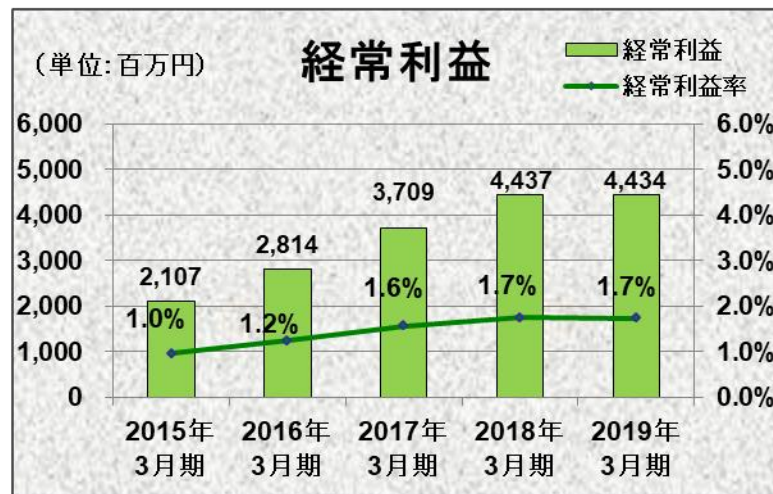
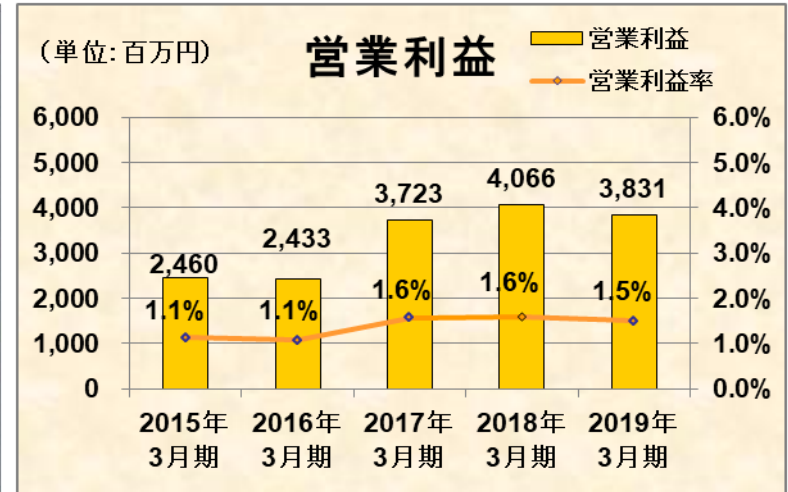
- ・当初予想：2018年5月10日に発表した2019年3月期業績予想数値
- ・売上高：水産商事などが減収となったが、冷凍食品が伸長し、前期比13億円の増収
- ・営業利益：水産商事の市況低迷や鰹・鮪の魚価下落の影響などにより、全体で前期比2億円の減益



計算書類



2. 連結業績の推移





計算書類



3. 個別損益計算書

(単位:百万円)

	実績		前期比	
	2018年3月期	2019年3月期	(増減金額)	(増減比率)
売上高	247,950	250,680	2,729	1.1%
営業利益	2,853	2,645	△208	△7.3%
経常利益	2,870	2,777	△93	△3.3%
当期純利益	2,348	1,551	△796	△33.9%

- ・売上高：水産商事などが減収となったが、冷凍食品が伸長し、前期比27億円の増収
- ・営業利益：水産商事などが上半期での市況低迷の影響により、前期比2億円の減益



計算書類



4. 連結貸借対照表

(単位:百万円)

	2018年 3月末	2019年 3月末	前期比		2018年 3月末	2019年 3月末	前期比
資産の部				負債の部			
流動資産	81,218	89,425	8,206	流動負債	52,100	54,730	2,630
受取手形及び売掛金	32,879	35,540	2,660	内、短期借入金 (含むCP・CB)	31,234	34,469	3,235
商品及び製品	29,943	34,458	4,514	固定負債	24,954	27,946	2,992
仕掛品	2,854	3,049	194	内、長期借入金	19,800	23,193	3,392
原材料及び貯蔵品	7,124	7,439	314	負債合計	77,054	82,677	5,623
その他	8,415	8,937	521	純資産の部			
固定資産	25,078	25,248	169	株主資本	28,828	31,346	2,518
有形固定資産	15,377	14,981	△395	その他の包括利益累計額	60	475	414
無形固定資産	497	549	51	非支配株主持分	353	174	△179
投資その他の資産	9,203	9,717	514	純資産合計	29,243	31,996	2,753
資産合計	106,297	114,673	8,376	負債及び純資産合計	106,297	114,673	8,376



計算書類

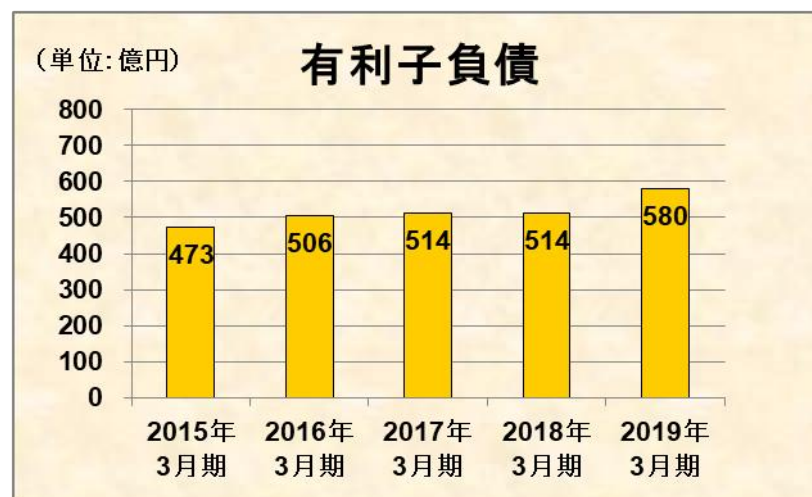
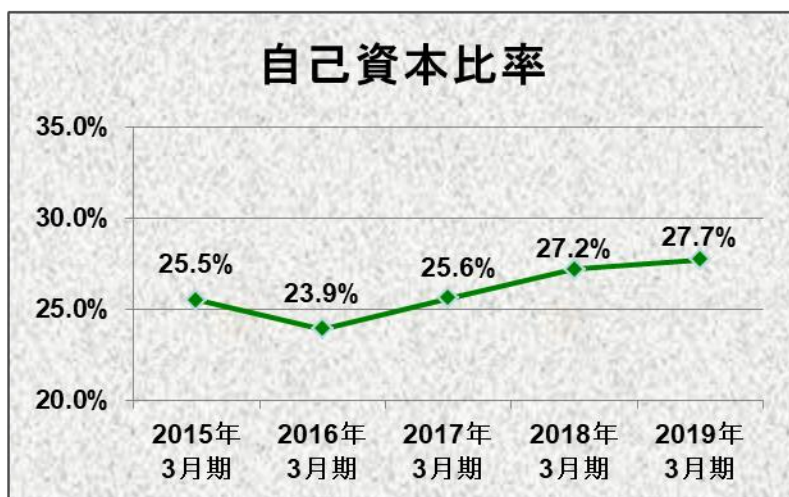
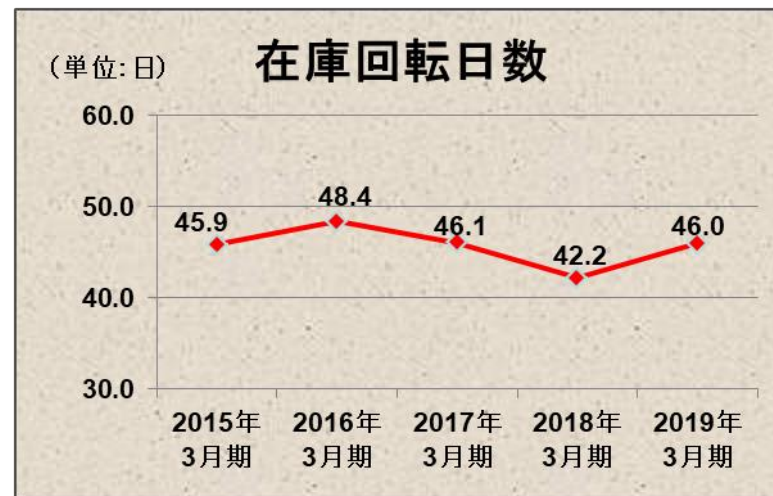


5. 連結キャッシュ・フロー計算書

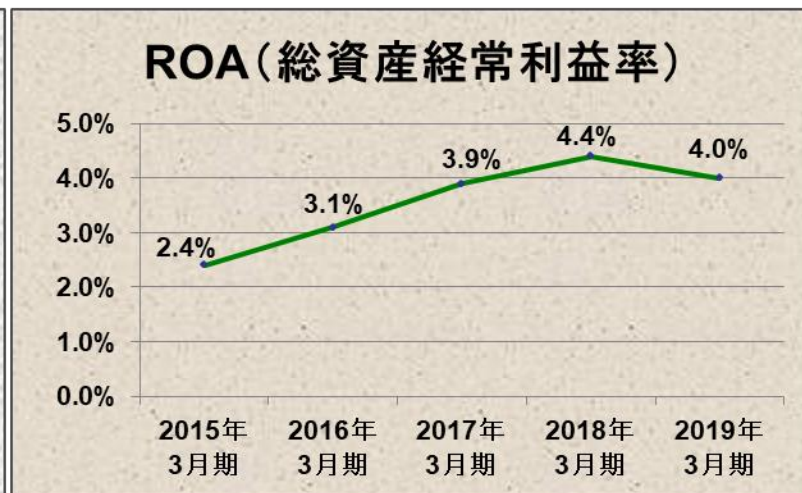
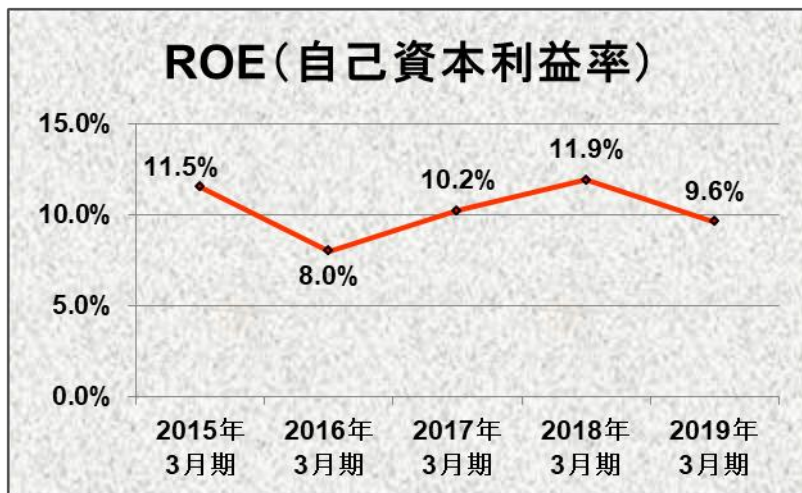
(単位:百万円)

		連結会計年度		
		2018年3月期	2019年3月期	前期比
営業活動による キャッシュ・フロー	税金等調整前当期純利益	4,552	3,989	△563
	減価償却費	1,814	1,882	68
	売上債権の増減(△は増加)	△3,777	△2,777	1,000
	たな卸資産の増減(△は増加)	△3,102	△5,046	△1,943
	仕入債務の増減(△は減少)	4,722	△1,415	△6,138
	その他	△1,008	△751	257
	小計	3,201	△4,118	△7,320
投資活動による キャッシュ・フロー	固定資産の取得	△1,372	△2,064	△691
	その他	193	△430	△623
	小計	△1,179	△2,494	△1,315
財務活動による キャッシュ・フロー	短期借入金の増減(△は減少)	716	5,130	4,414
	長期借入れの増減(△は減少)	360	1,658	1,297
	その他	△821	△831	△10
	小計	255	5,958	5,702

6. 連結財務指標の推移



7. 連結経営指標の推移





計算書類

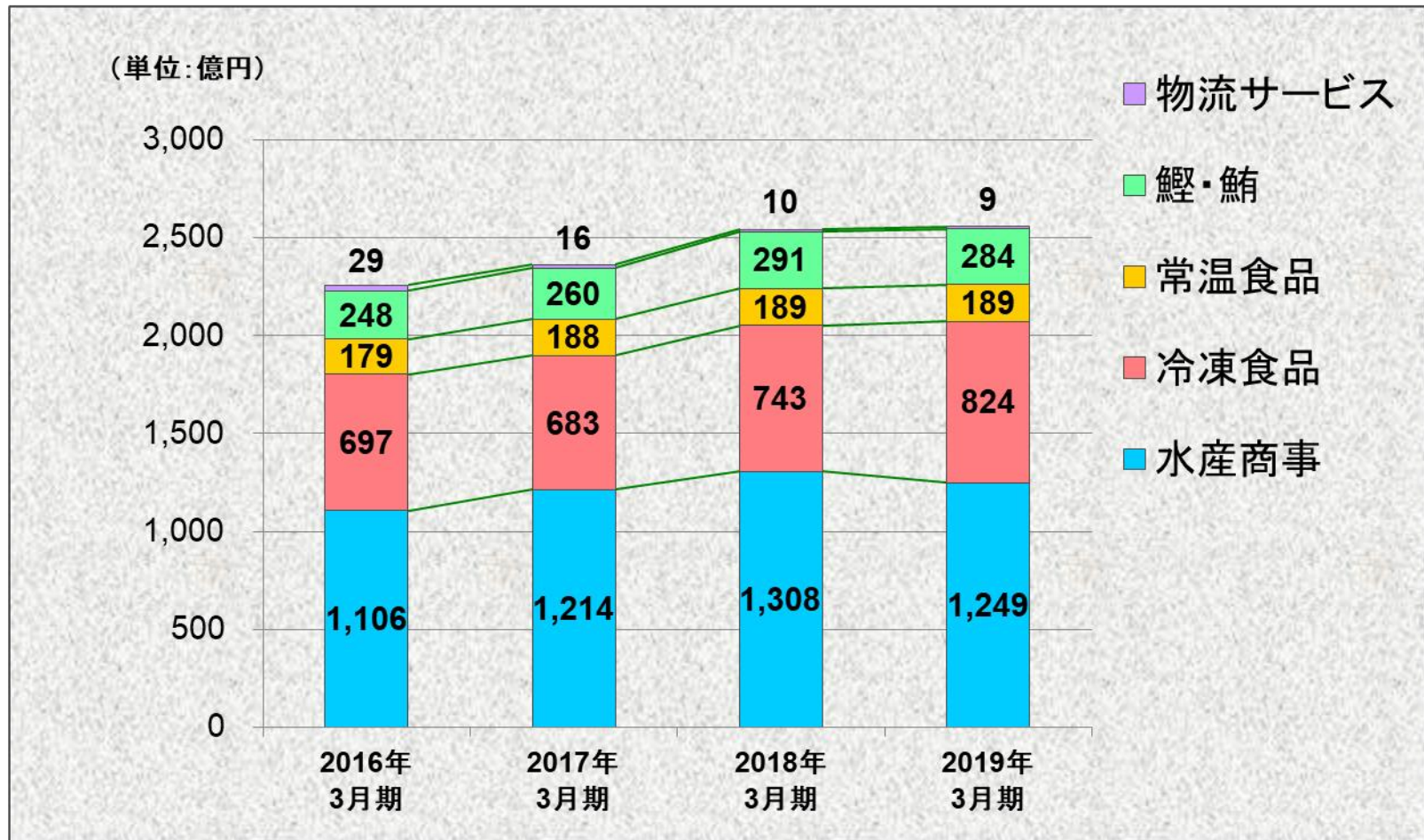


8. 事業セグメント別 売上高及びセグメント利益<連結>

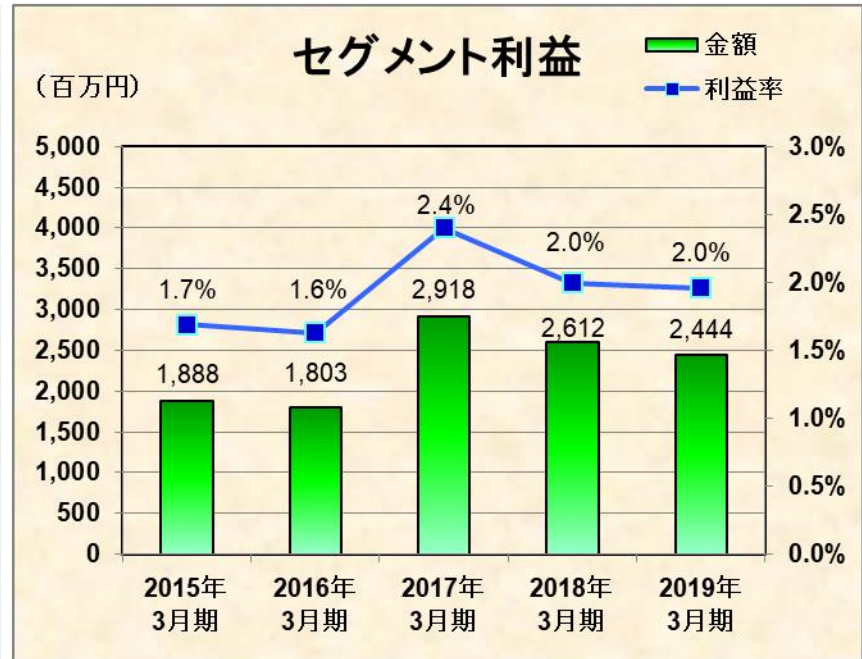
(単位:百万円)

	売上高			セグメント利益		
	連結会計年度		前期比	連結会計年度		前期比
	2018年3月期	2019年3月期		2018年3月期	2019年3月期	
水産商事	130,847	124,952	△5,895	2,612	2,444	△168
冷凍食品	74,396	82,405	8,009	897	932	35
常温食品	18,973	18,976	3	363	482	118
鰹・鮪	29,145	28,442	△702	1,029	737	△292
物流サービス	1,035	994	△40	248	265	17
その他	384	378	△6	△1,086	△1,030	55
合計	254,783	256,151	1,367	4,066	3,831	△235

9. 事業セグメント別 売上高比較<連結>



1. 水産商事事業<連結>…水産物の買付及び販売



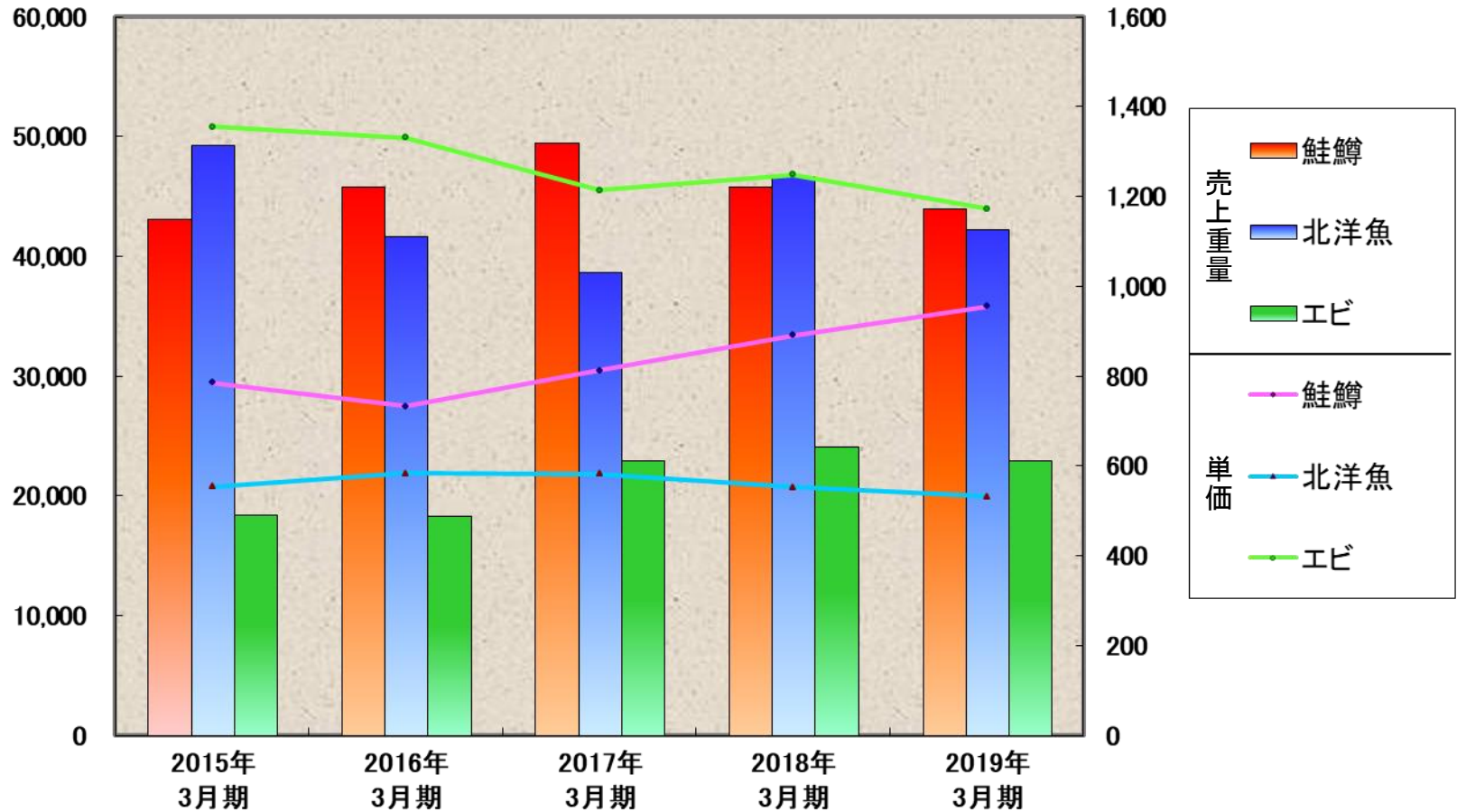
【当期の状況】

- 減収減益
 - 前期から続く北洋魚・エビなどの国内市況低迷が長引き上半期に苦戦
 - 鮭鱒は付加価値加工品の取り扱いにより売り上げが伸長
 - 海外販売において、サバ・イワシなどの輸出のほか、米国子会社の現地販売が伸長

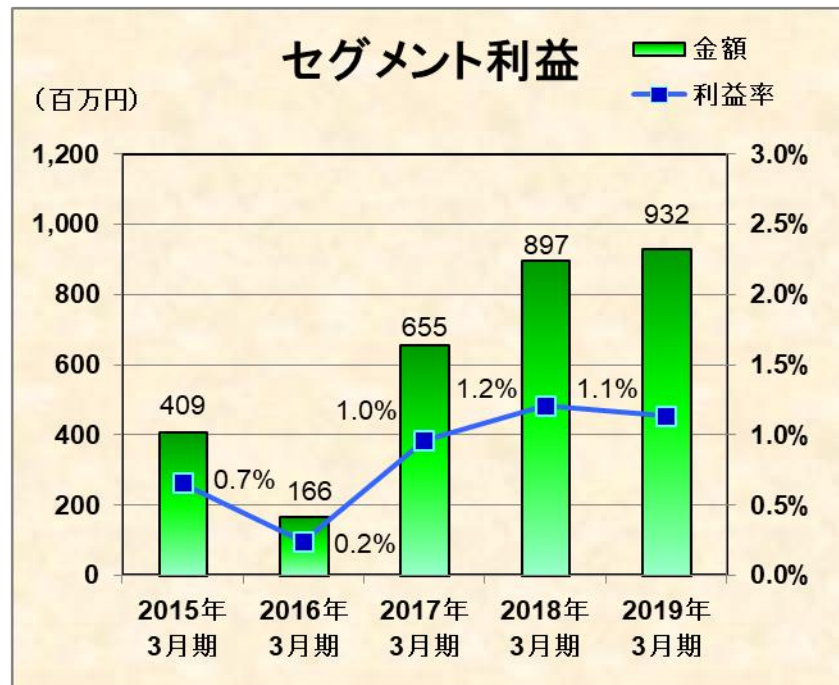
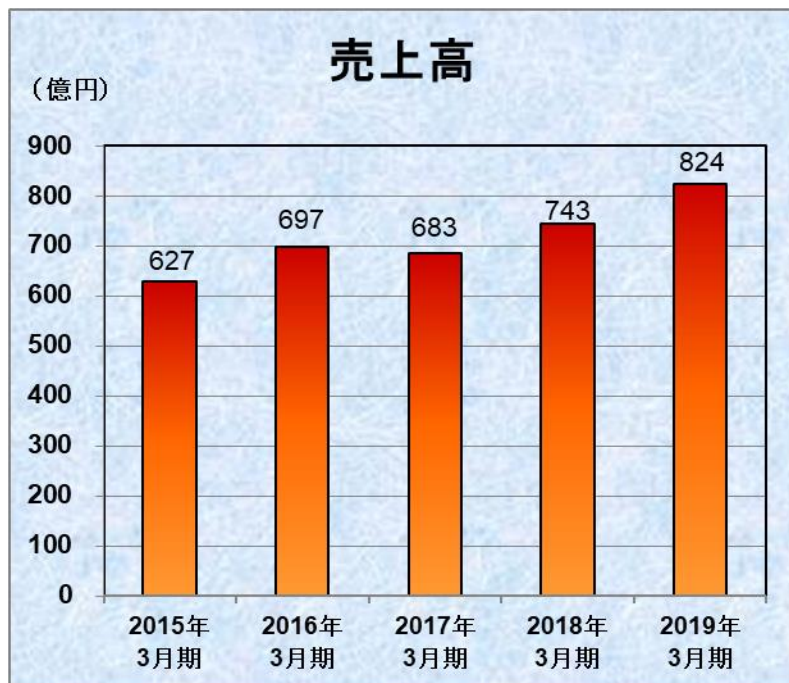
水産商事事業〈個別〉…魚種別売上重量・単価推移

(単位:トン)

(単位:円/kg)



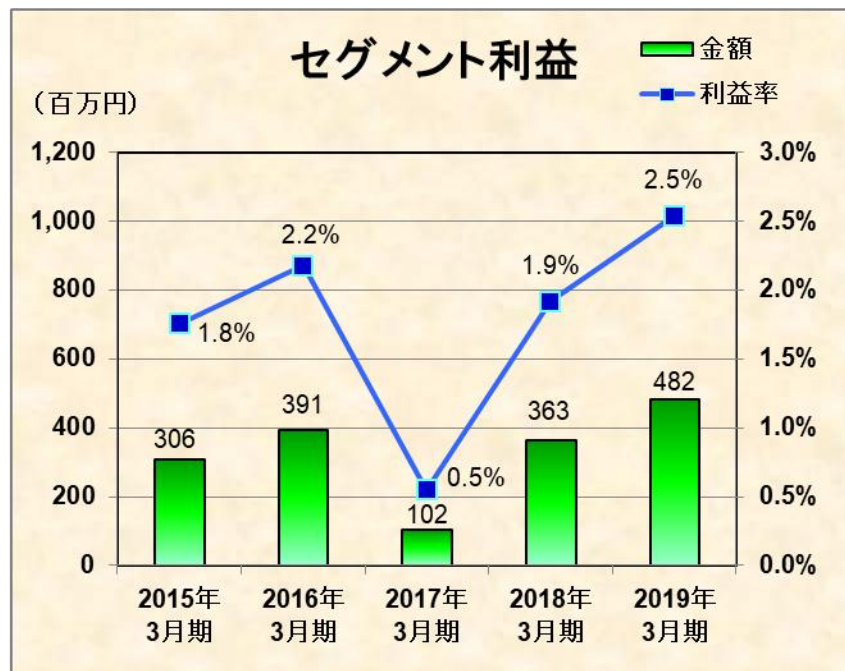
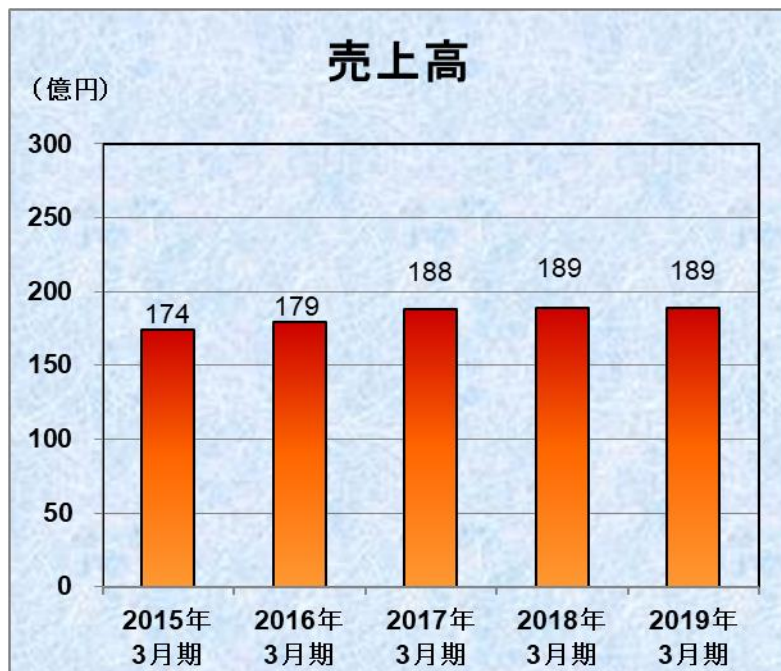
2. 冷凍食品事業<連結>…冷凍食品の加工及び販売



【当期の状況】

- 増収増益
 - 煮魚などの加熱用商品や寿司種を中心とした生食用商品を拡販
 - カニ風味カマボコや水産フライ類の販売が順調に推移
 - 塩釜工場製造による家庭用冷凍食品の販売が伸長

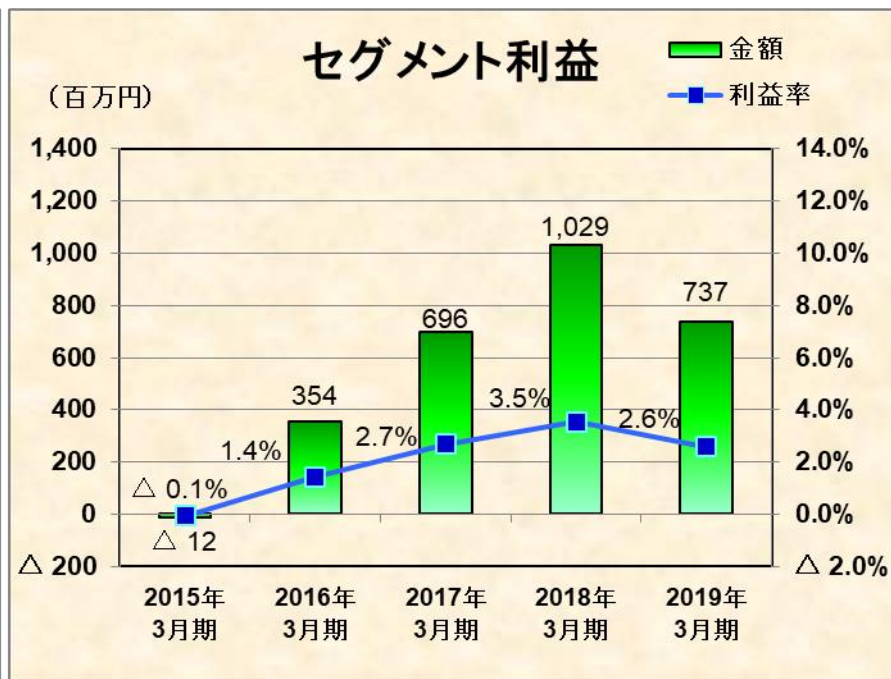
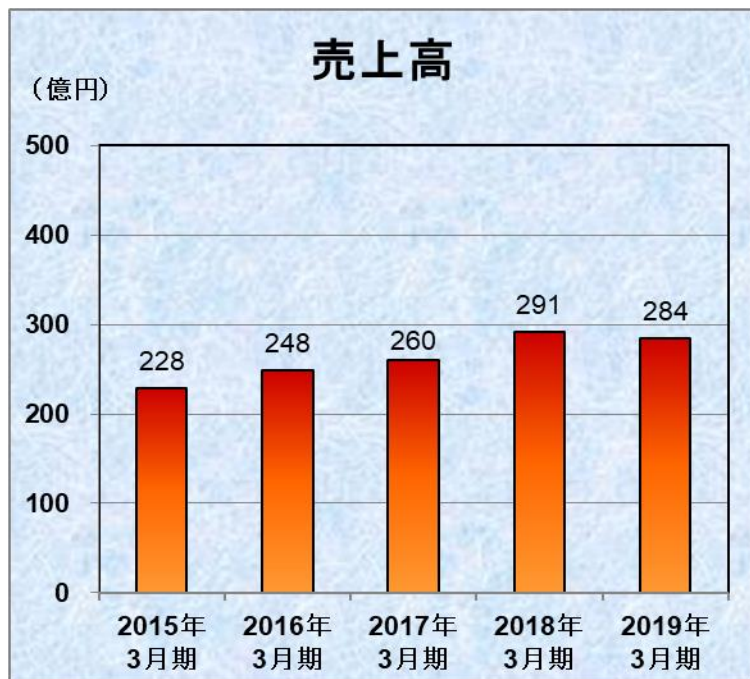
3. 常温食品事業<連結>…缶詰・珍味製品他の加工及び販売



【当期の状況】

- 増収増益
 - サバ缶の供給不足に対し、イワシ缶の販売に注力
 - 珍味製品はコストアップ対策を実施するとともに、販売が好調に推移

4. 鰹・鮪事業〈連結〉…海外まき網事業・養殖事業・鰹鮪加工販売事業



【当期の状況】 □ 減収減益

- 《海外まき網事業》 ➤ 水揚げ数量は増加したが魚価が大幅に下落
- 《養殖事業》 ➤ 完全養殖クロマグロをはじめ、安定出荷に注力
- 《加工販売事業》 ➤ クロマグロなどの脂物製品やネギトロ製品、カツオ加工品の販売が伸長

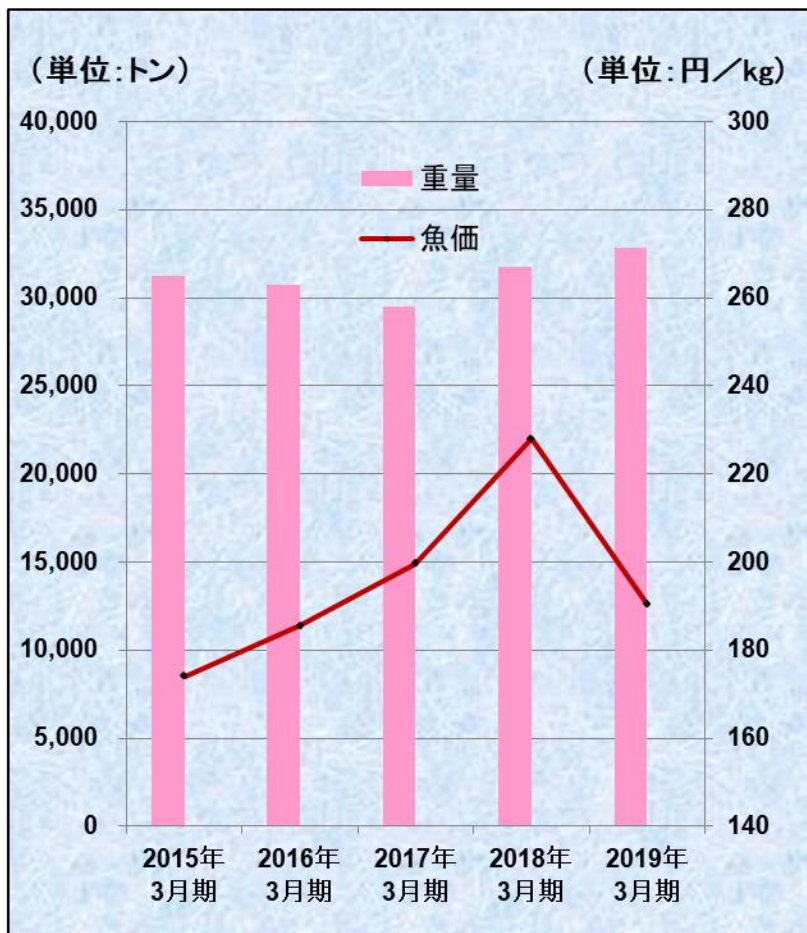


事業セグメント別の状況



鯉・鮪事業

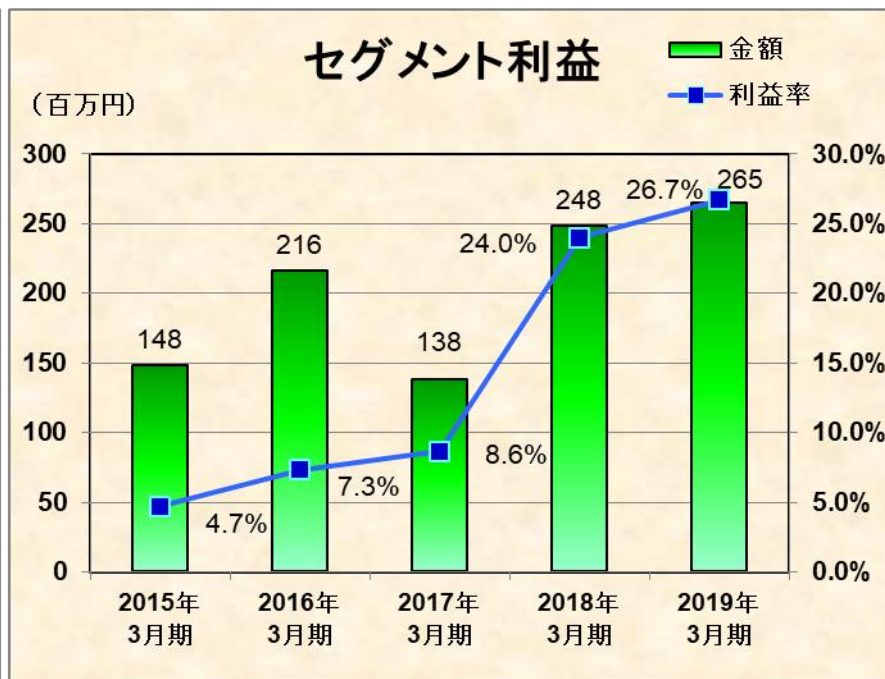
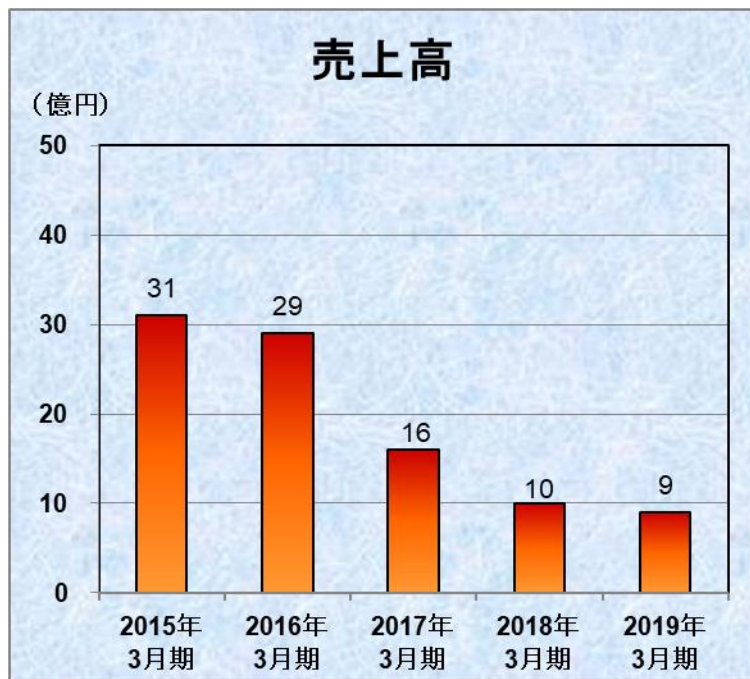
〈海外まき網事業〉…水揚げ推移



〈養殖事業〉…売上推移



5. 物流サービス事業<連結>…冷蔵倉庫事業



【当期の状況】

- 減収増益
 - 冷蔵倉庫事業は入庫貨物の確保を図り、配送事業を強化
 - 連結子会社において会社分割、株式譲渡を実施

※2017年3月期までは冷蔵運搬船事業を含む



2020年3月期 施策及び業績予想



事業セグメント別の施策



➤ 2020年3月期の事業セグメント別施策

【水産商事セグメント】

- 質の高い水産物の安定的な供給
- 高付加価値商品の開発
- 国内・海外の販売ルート強化と開拓

【冷凍食品セグメント】

- 直系工場製品や畜肉、冷凍野菜など、注力商材の販売強化
- 健康・機能性・時短などのマーケットニーズを捉えた商品の開発
- 在庫管理の徹底や効率的配送による経費の削減

事業セグメント別の施策

【常温食品セグメント】

- サバ・イワシなど水産缶詰の海外調達力を増強
- 注力取引先との取り組み強化による販売拡大

【鰹・鮪セグメント】

- 養殖事業の収益安定化
- 輸入蓄養マグロの取り扱い拡大と末端直結の販売ルート構築
- 海外まき網原料の活用による新製品の開発

【物流サービスセグメント】

- 極洋グループの在庫を核とした庫腹率の向上
- ロジスティクス事業との協業と配送事業の拡大



業績予想



➤ 事業セグメント別業績予想〈連結〉

(単位:百万円)

	売上高			セグメント利益		
	2019年3月期 実績	2020年3月期 予想	前期比	2019年3月期 実績	2020年3月期 予想	前期比
水産商事	124,952	143,000	18,047	2,444	3,000	555
冷凍食品	82,405	90,000	7,594	932	1,800	867
常温食品	18,976	20,000	1,023	482	500	17
鰹・鮪	28,442	32,000	3,557	737	1,200	462
物流サービス	994	1,000	5	265	200	△65
その他	378	0	△378	△1,030	△1,200	△169
合計	256,151	286,000	29,848	3,831	5,500	1,668

➤ 2020年3月期 設備投資計画

	概要	2019年3月期 実績	2020年3月期 計画
極 洋	生産工場関連	1億円	2億円
	研究所関連	0億円	1億円
	養殖事業海上	1億円	1億円
	IT関連その他	4億円	4億円
	計	6億円	8億円
関係会社	生産工場関連	10億円	17億円
	まき網事業関連	2億円	1億円
	養殖事業海上	1億円	0億円
	IT関連その他	3億円	5億円
	計	16億円	23億円
合計		22億円	31億円



本資料は、2019年3月末までの業績及び今後の経営ビジョンに関する情報の提供を目的として作成しており、必ずしも投資をお勧めするものではありません。

本資料に含まれる業績予想及び将来の予測は、現時点で入手される情報に基づくものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

したがって、実際の業績は、様々な要因により、これらの予想と異なることがありますのでご承知おきください。

当資料に対する問い合わせ窓口

株式会社 極 洋 企画部 電話03-5545-0703

本資料は株式会社極洋が作成したものであり、内容に関する一切の権利は当社に帰属します。複写及び無断転載はご遠慮ください。